

| | | | |
|-------|--|------|--|
| 区分・種別 | 県指定史跡 | | |
| 名称 | いわやいせき 岩谷遺跡 | | |
| 所在地 | 北宇和郡鬼北町大字岩谷 | | |
| 所有者 | 鬼北町 | 管理団体 | |
| 指定年月日 | 昭和57年3月19日 | | |
| 解説 | <p>岩谷遺跡は、広見川東岸の河岸段丘上にある縄文時代後期の遺跡である。この遺跡は上下2段に分かれており、どちらからも多数の縄文時代後期の土器や石器が発見された。特に下段の遺跡からは、直径4.5mの環状列石^{かんじょうれっせき}や組石等の配石遺構が検出されている。</p> <p>四万十川の支流である広見川は、勾配のきわめてゆるやかな河川で、淡水魚ばかりでなくナガエバ(アジの一種)等の海水魚も生息する豊かな河川である。このような自然環境や遺構を総合的に検討した結果、現在ではこの配石遺構は、豊漁を祈念した祭祠^{さいし}遺構ではないかと考えられている。出土遺物には、祭儀用と見られるペンダント風の石製装飾品も含まれている。</p> <p>東日本にはこのような配石遺構は多いが、西日本では数が少なく貴重である。</p> | | |

